

新規事業の創出／既存事業の革新を組織機能として仕組み化する

イノベーション・マネジメントシステム（IMS） 関連サービス

株式会社システムコンシェルジュ

イノベーション・マネジメントシステムとは

サービス構成

知識習得サービス

導入支援サービス

運用支援サービス

その他サービス

サービス利用のシナリオ

料金表



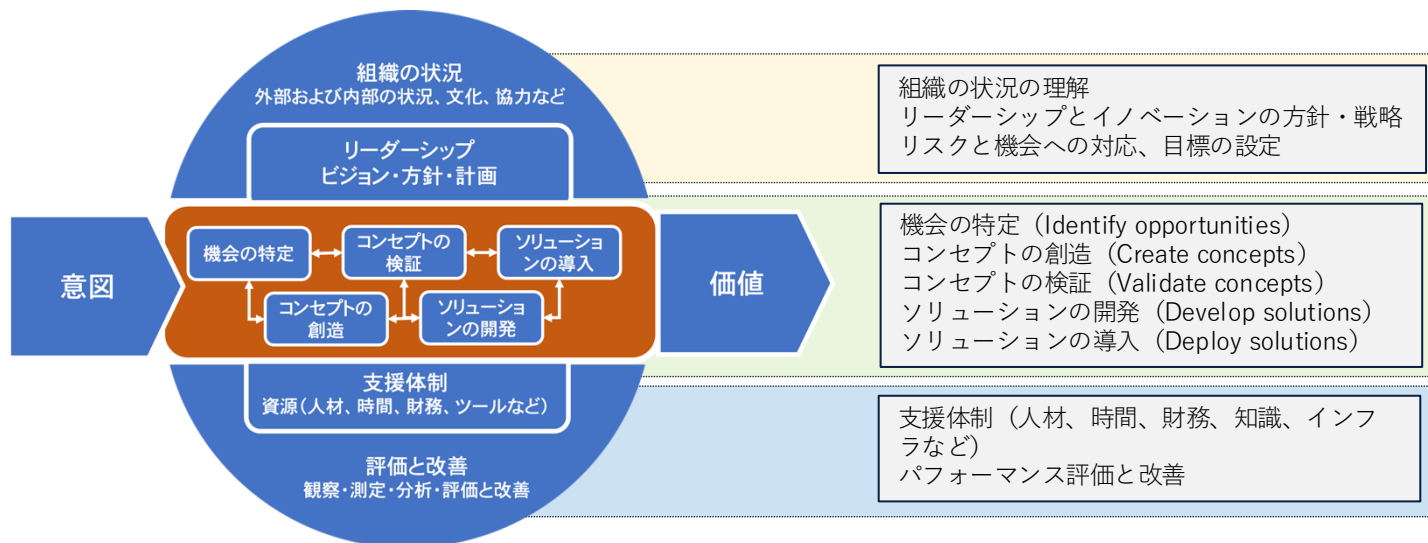
IMS（イノベーション・マネジメントシステム）とは、「不確実性」を前提としながら価値を生み出すマネジメントシステムです。
企業や組織が、予測困難なビジネス環境でも継続的に新しい価値を創出し続けるための仕組みを体系的なマネジメントシステムとして構築できます。
ISO 56001では、国際標準として定義されており、以下のような構成要素を持ちます。

■ IMS（イノベーション・マネジメントシステム）の概要

1. 目的と効果

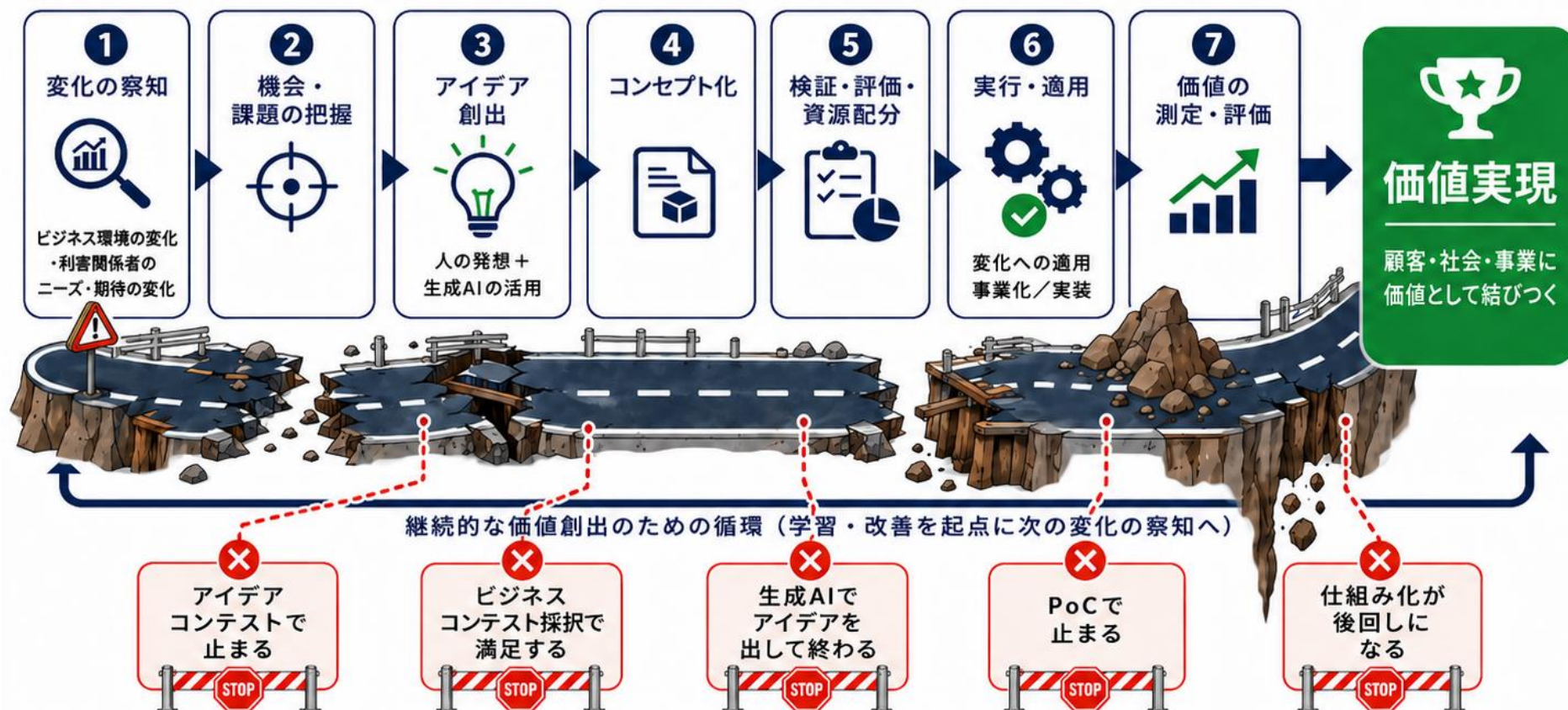
- ・ 不確実性の中でも組織が継続的にイノベーションを生み出せるようにする
- ・ 新しい製品・サービス・プロセス・ビジネスモデルなどを通じて「価値の実現」を目指す
- ・ イノベーション活動の成果を組織全体で最大化し、社会的な持続可能性にも貢献する

2. 構成要素（要求事項）



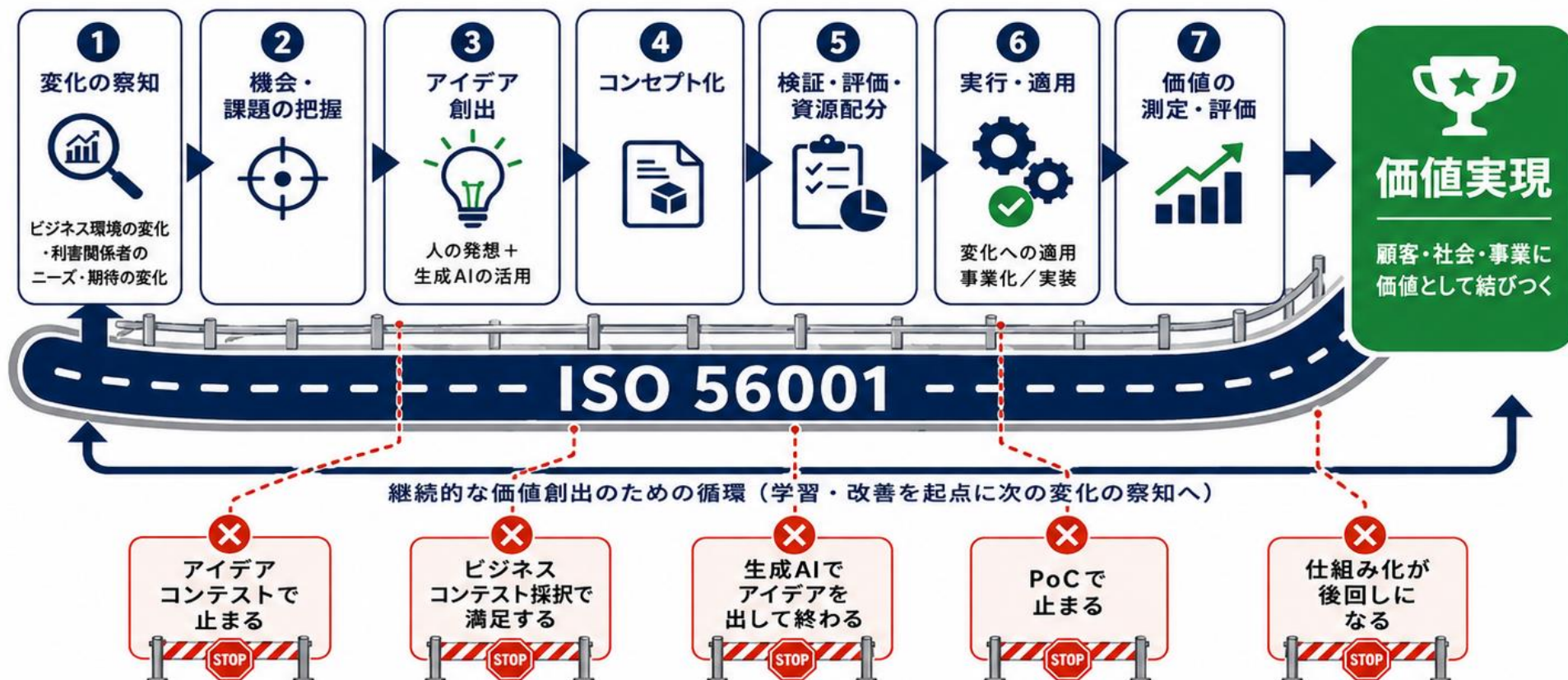


やっているようで「価値に結びつかない」イノベーション活動





ISO56001は、価値を創出するための道路でありガードレールです。
「価値」に結びつくための活動ができるようになります。



イノベーション・マネジメントシステムとは

サービス構成

知識習得サービス

導入支援サービス

運用支援サービス

その他サービス

サービス利用のシナリオ

料金表

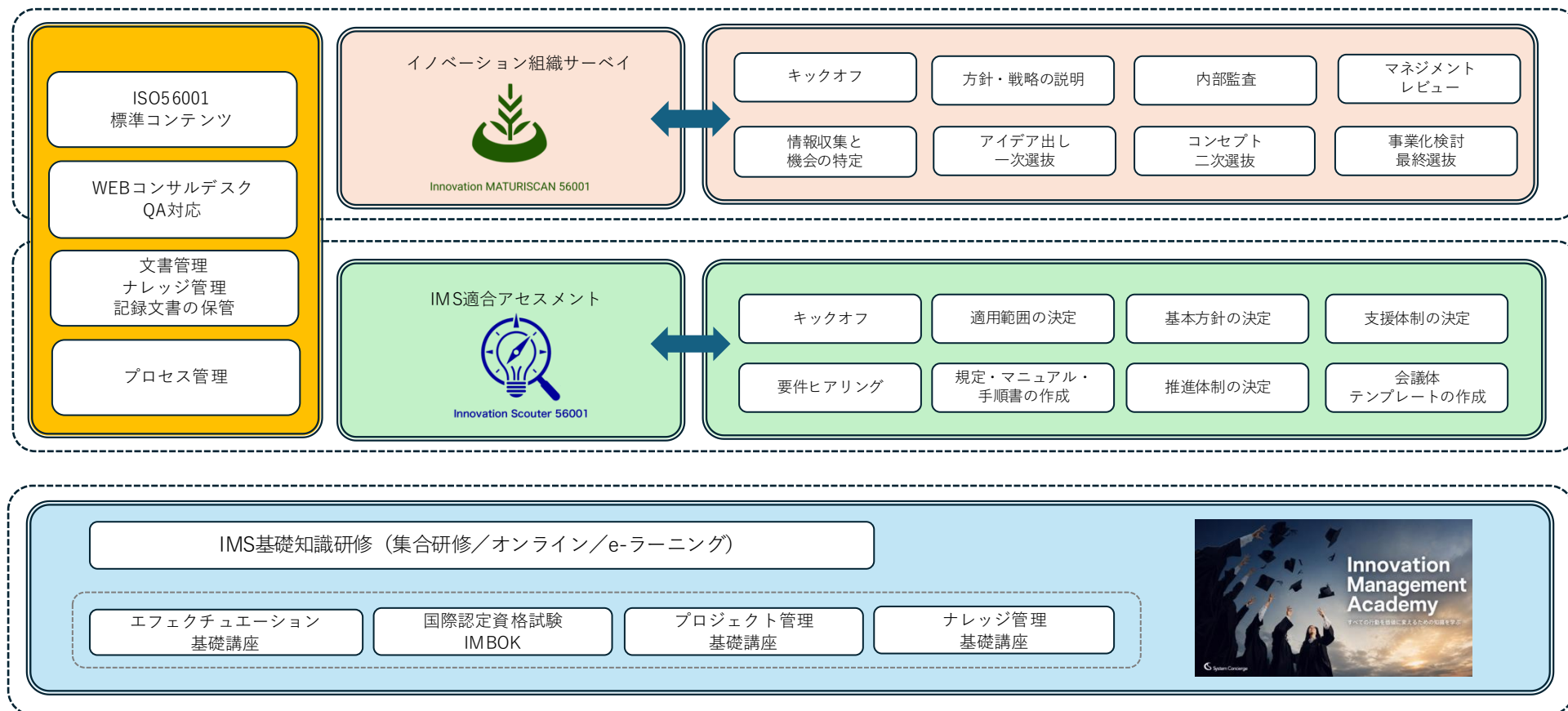


ITテクノロジーで価値創造と創出を支援するジェネレーティブプロバイダー

System Concierge

全体サービス構成

株式会社システムコンシェルジュでは、3つの段階に対応した支援サポートを提供しています。



当社は、イノベーション・マネジメントシステム（以下、IMS）特化型の仕組み作りサービスです。

仕組みを確実に作る**豊富なコンテンツ提供**

- ・ 規程、マニュアル、手順書、記録様式
- ・ 方針・戦略・目標・評価基準
- ・ アイデア、コンセプト、プロジェクトの管理プロセス
- ・ 文書管理、ナレッジ管理、記録管理
- ・ プロジェクト管理・イノベーション管理のIT環境
- ・ 内部監査、マネジメントレビュー
- ・ 継続改善の運用ルール

「IMSの考え方を教える会社」ではなく、顧客の組織に「実際に使える経営・業務システムを運営できる仕組み」の構築と定着ができるサービスである。

組織の規模や状態に応じた最適な仕組み

大企業に中であっても、新規事業や協創部門は、小規模な事業体です。そこに大企業の論理や仕組みを実装しても成功するとは限りません。大企業、中小企業、スタートアップ&小規模の仕組み作りのパターンをもつサービスだからこそ、最適な仕組み作りを提供することができます。

「仕組み」と「組織文化」を分けて診断

仕組みが整っていても、文化が機能していなかったり、意欲的な人材がいても、意思決定や資源配分の仕組みがなければ成果につながりません。

「仕組み」と「組織文化」の2つの診断で、現在の状態を可視化し、具体的な対策を行うことができます。

コンサルティングとIT実装を両立したサービス

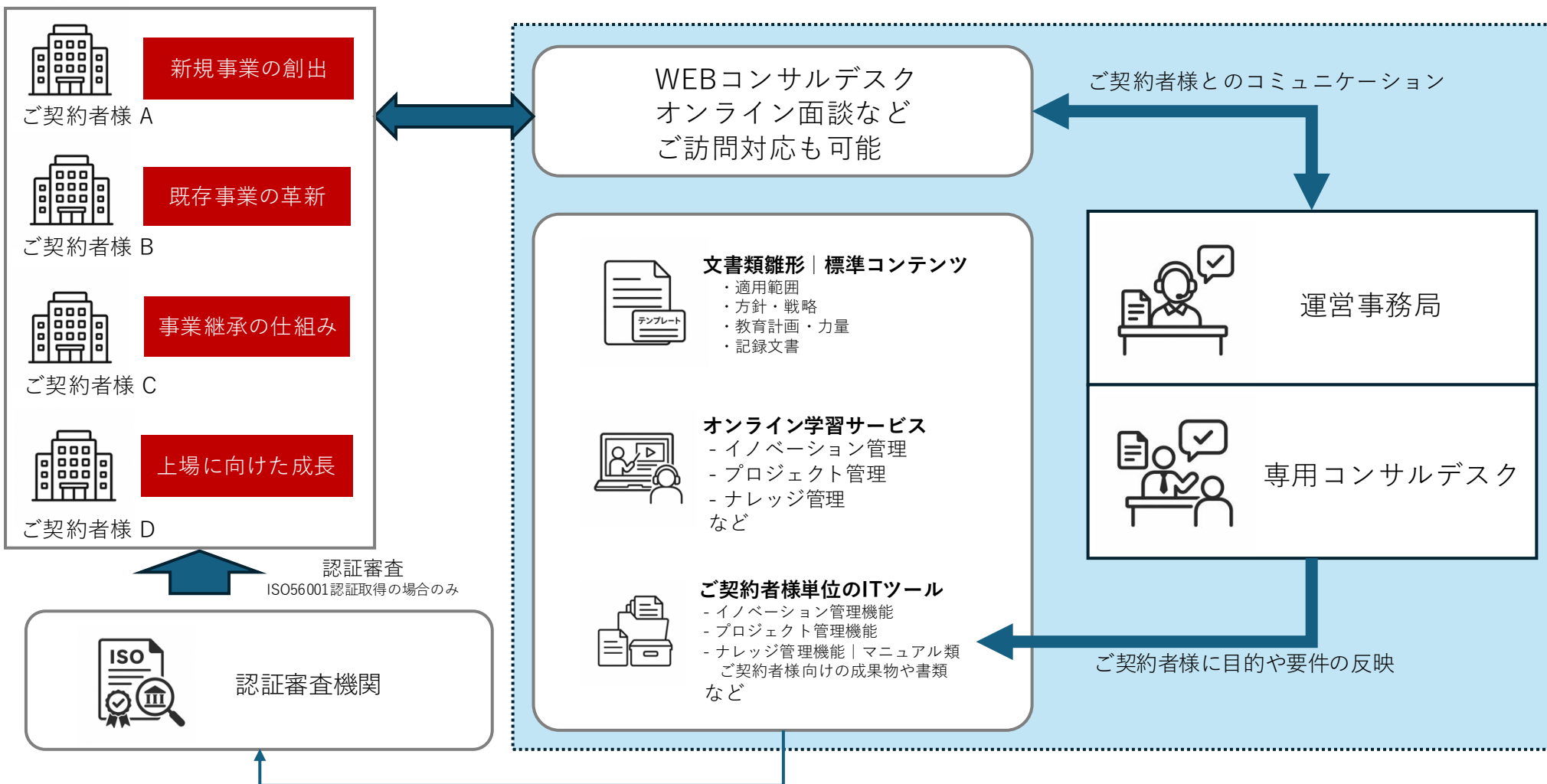
曖昧な「あるべき論」で終了するサービスではありません。組織に最適なIMSのプロセスをデジタル技術を使って、構築と運用の手間を軽減させることができるサービスです。継続運用が可能な状態にするサービスです。

導入後、運用時でも**WEBヘルプデスクで支援**

IMSは規程やプロセスを作って終わりではありません。「専用コンサルデスク」「運営事務局」「よろず相談」「QA対応」などの支援で、お客さまの推進担当者を孤立させず、形骸化への対応もケアいたします。



当社のサービスは、実務レベルの具体的な標準コンテンツをベースにお客さまの求める姿に合わせて仕組みの構築と運用が可能です。



イノベーション・マネジメントシステムとは

サービス構成

知識習得サービス

導入支援サービス

運用支援サービス

その他サービス

サービス利用のシナリオ

料金表



なぜ知識習得から始めるのか

知識習得から始める理由は、イノベーション活動を属人的な取り組みではなく、組織全体で再現可能な仕組みにするためです。

「イノベーション」の意味が人によって違うから

組織の中では、イノベーションという言葉が、人によって違う意味で使われがちです。
ある人は「新製品開発」と考え、別の人は「業務改善」と考え、経営層は「新規事業」と考える。
この状態でアイデア募集やワークショップを始めると、議論の前提がずれてしまいます。
イノベーションやイノベーション・マネジメントを議論し、適用するためには**共通言語が重要**であるとされています。

アイデア出しで終わらせないため

多くの組織では、イノベーション活動が「アイデア募集」「アイデアコンテスト」「PoC」で止まりがちです。生成AIやDXにおいても同じです。
これは、アイデアを出す方法だけを学び、そこから先の価値に繋げるプロセスを理解していないために起こります。
イノベーションを一部の担当者や偶発的な活動に任せるのではなく、組織として継続的に価値を生み出すための「**経営の仕組み**」として理解することに置いています。

経営層・推進部門・現場の認識をそろえるため

イノベーションは、経営層だけ、推進部門だけ、現場だけが理解していても機能しません。経営層は方針・戦略・資源配分を理解する必要があります。
推進部門はプロセス設計や支援体制を理解する必要があります。
現場は、自分たちがなぜ参加するのか、何を価値として考えるのかを理解する必要があります。
役職、役割を横断した**共通認識が重要**なのです。

イノベーションを組織に組み込み可能にする

単に「新規事業を作りましょう」「アイデアを出しましょう」という内容ではありません。
本講座では、組織の状況、リーダーシップ、計画、支援体制、活動、評価、改善をつなげて、イノベーションを継続的に生み出す仕組みを求めています。
知識習得によって、イノベーションを生み出すためのマネジメント手法理解し、**共通手法にすること**で組織に組み込むことができます。

知識習得サービス概要

本サービスは、価値を生み出す考え方と、そのために必要な知識を学ぶ研修講座です。

イノベーションとは、単に新しいアイデアを出すことではなく、社会や市場の変化をとらえ、そこから機会やリスクを見極め、新たな価値につなげることです。

本研修では、イノベーションの重要性を理解し、変化を価値に変えるための基本的な考え方と実践知識を学びます。

ISO56001の認証取得を目指す企業だけでなく、すべての従業員が身につけておくべきビジネスリテラシーを養う研修プログラムです。

本サービスは、「オンライン研修」と「集合研修」を提供します。オンライン研修は、無料コンテンツと有料コンテンツが提供されています。



オンライン研修

無料

有料



集合研修

有料

Innovation Management Academy

新規事業の創出と既存事業の革新の方法を学ぶ



オンライン研修「Innovation Management Academy」は、いつでも誰でもイノベーションに関する知識を学べる研修プラットフォームです。

イノベーション・マネジメントシステム（IMS）だけでなく、ISO56001の要求事項などイノベーションに関する知識を学ぶためのものです。

無料コンテンツ

セミナー動画（アーカイブ）
サービス概要説明
その他

有料コンテンツ

有料コンテンツ

¥500円～ / 講座
講座によって価格が異なります



<https://one-stream.io/join/user/1b61f954-f475-4fef-ad60-c9c690cf7750>



講座名	時間	概要	講座種別
1.イノベーションマネジメント関連			
IMS基礎知識習得講座	合計300分	STEP1からSTEP12までを集合研修、またはオンラインで学ぶ	集合研修 / オンライン
ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）基礎ラーニング	合計330分		e-ラーニング
STEP1 なぜ今、ISO 56001が必要なのか	約30分	イノベーション活動の失敗例から、なぜISO56001に取り組むと成功率が上がるのかを解説します。	e-ラーニング
STEP2 ISO56001の基本概念と全体像 公開準備中	約30分	ISO56001の基本概念と全体像、適用範囲と用語定義、実務レベルの実装例を解説します。	e-ラーニング
STEP3 組織の状況とイノベーションの意図 公開準備中	約30分	「組織の状況」の「イノベーションの意図」を解説し、組織の状況における実務レベルの実装例を解説します。	e-ラーニング
STEP4 リーダーシップ、方針、戦略 公開準備中	約30分	経営陣やマネジメント層の関与が、単なる承認や掛け声ではなく、方針・戦略・資源・文化・意思決定基準を整えることを解説します。	e-ラーニング
STEP5 イノベーション目標と計画 公開準備中	約30分	イノベーション目標を、単なる売上目標や件数目標ではなく、価値実現に向けた活動目標として設計することを解説します。	e-ラーニング
STEP6 11つの支援体制と必要性 公開準備中	約30分	「イノベーションを頑張れ」と言うだけではなく、活動できる状態を組織として整えることの重要性を解説します。	e-ラーニング
STEP7 イノベーション活動のプロセス（前編） 公開準備中	約30分	イノベーション活動を、アイデア創出から価値実現までの連続したプロセスとして解説し、「機会の特定」～「コンセプトの創出」～「コンセプトの検証」まで解説します。	e-ラーニング
STEP9 イノベーション活動のプロセス（後編） 公開準備中	約30分	イノベーション活動を、アイデア創出から価値実現までの連続したプロセスとして解説し、「ソリューションの開発」～「ソリューションのリリース」まで解説します。	e-ラーニング
STEP10 パフォーマンス評価と価値の測定 公開準備中	約30分	イノベーション活動を売上や件数だけで評価するのではなく、価値実現と組織能力向上の両面から評価するための方法。「マネジメントレビュー」のやり方、価値の測定の仕方などを解説します。	e-ラーニング
STEP11 改善と仕組みの定着 公開準備中	約30分	イノベーション・マネジメントシステムを、形式的な制度ではなく、組織が学習し続ける仕組みとして運用する考え方を解説します。	e-ラーニング
STEP12 実践！ISO56001の仕組み構築へ 公開準備中	約30分	これまで学んだISO56001の要求事項を連続した組織機能と定着される方法を解説します。	e-ラーニング
2.イノベーション思考関連			
エフェクチュエーション基礎講座	約120分	優れた起業家が実践する5つの原則と思考法を解説します。	集合研修 / オンライン
3.イノベーション活動関連			
ナレッジ管理基礎講座	約120分	なぜ日本でナレッジ管理は成功しないのか？、その問題点を解説し、知識獲得から知識蓄積・知識活用プロセスまで実務レベルの実装例を解説します。	集合研修 / オンライン
プロジェクト管理基礎講座	約120分	コンセプトとソリューションの齟齬をなくすためのプロジェクト管理手法を解説します。	集合研修 / オンライン
4.イノベーション認定資格関連			
国際認定資格試験講座 Innovation Catlyst (IMBOK) イノベーション能力診断／思考特性診断／資格試験を含む	合計300分	世界最大規模の国際的なイノベーション研究機関「Global Innovation Management Institute」が認定するイノベーション認定資格取得講座と試験を提供します。	集合研修

イノベーション・マネジメントシステムとは

サービス構成

知識習得サービス

導入支援サービス

運用支援サービス

その他サービス

サービス利用のシナリオ

料金表



本サービスは、組織内にイノベーションを継続的に生み出すための仕組みを構築するサービスです。

ISO56001認証の取得を目指す組織はもちろん、認証取得を目的とせず、自社に合ったイノベーションの仕組みづくりを進めたい組織にも対応しています。

現状確認



Innovation Scouter 56001

IMS適合アセスメント

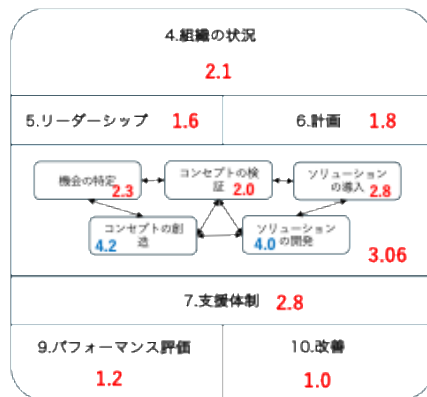
要件ヒアリング



仕組み構築



リリース



診断後の評価結果

目指したいこと（意図）
方針・戦略など

適用範囲／用語の定義

リーダーシップ／計画
に関する確認

ルール定義

プロセス定義と構築
ガイドライン定義
判断基準／価値測定

ツール定義

ツールと方法／教育

力量定義と教育

力量定義
教育計画と実施

仕組みのチェック

各種仕組みチェック

リリース準備

伝達（告知）の準備
役割体制の整備
など

リリース

伝達（告知）
マニュアル配布の説明
など

イノベーション・マネジメントシステムとは

サービス構成

知識習得サービス

導入支援サービス

運用支援サービス

その他サービス

サービス利用のシナリオ

料金表



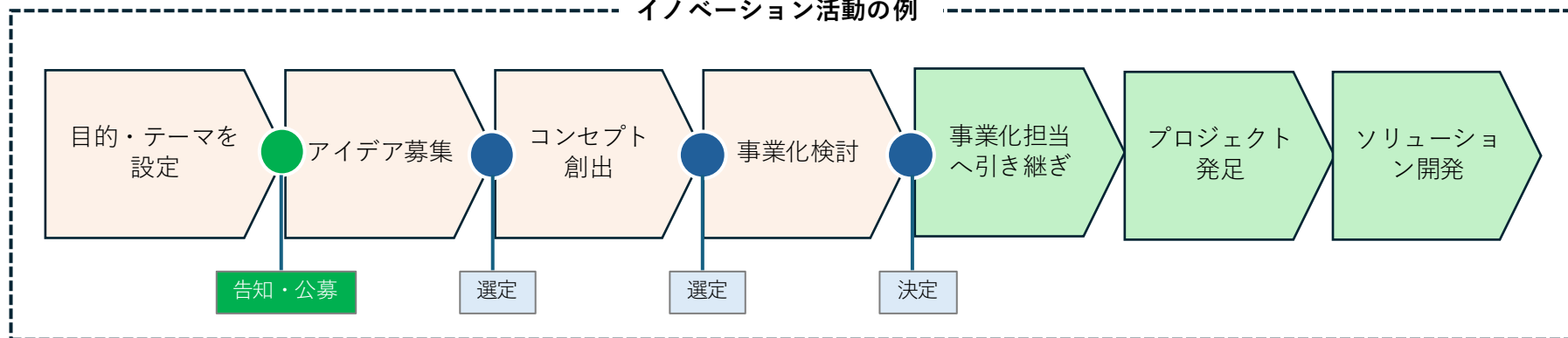
ITテクノロジーで価値創造と創出を支援するジェネレーティブプロバイダー

System Concierge

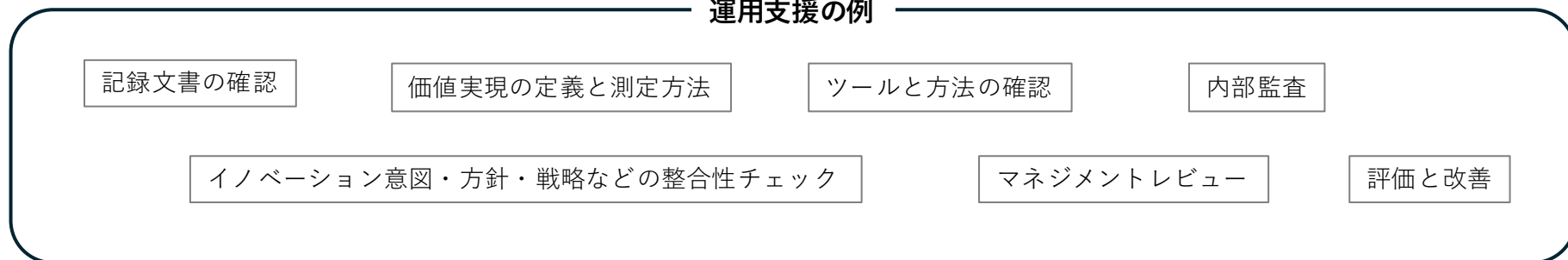
運用支援サービス

本サービスは、組織内で実際にイノベーション活動を進めるための運用支援サービスです。
お客様の推進チームに伴走しながら、アイデア創出、検討、評価、実行に向けた活動を支援します。

イノベーション活動の例



運用支援の例



イノベーション・マネジメントシステムとは

サービス構成

知識習得サービス

導入支援サービス

運用支援サービス

その他サービス

サービス利用のシナリオ

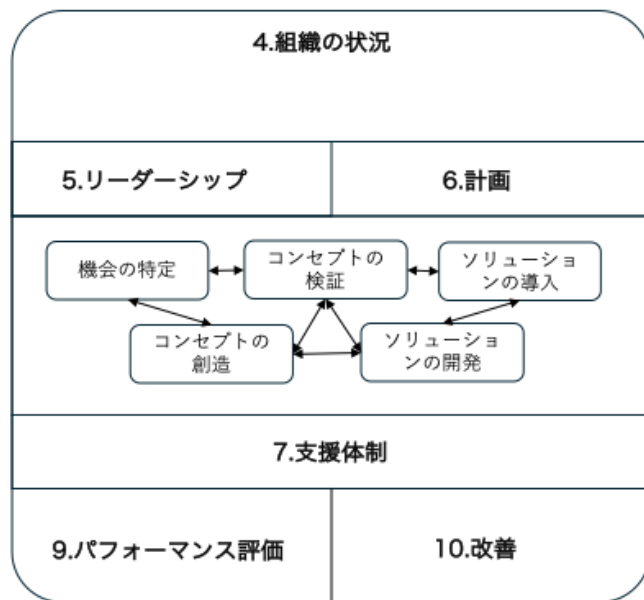
料金表



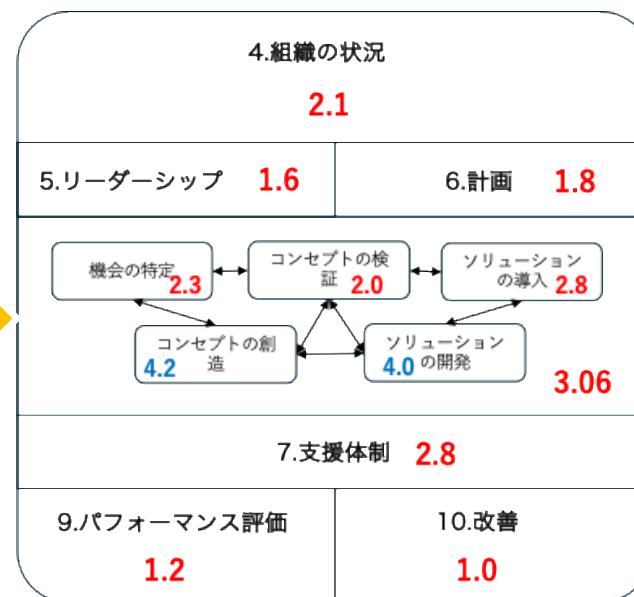
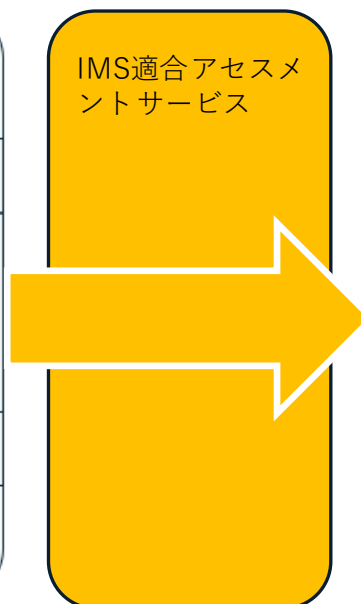
Innovation Scouter 56001

属人化ではなく 組織にイノベーションの仕組みがあるか測定する

IMS適合アセスメントとは、
国際標準規格：ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）の要求事項に対する適合を評価します。



ISO56001体系図

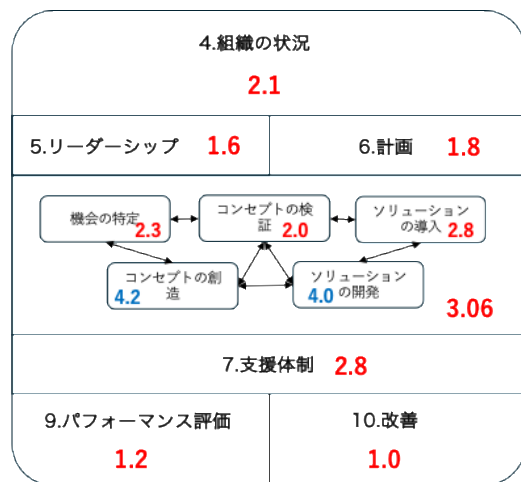
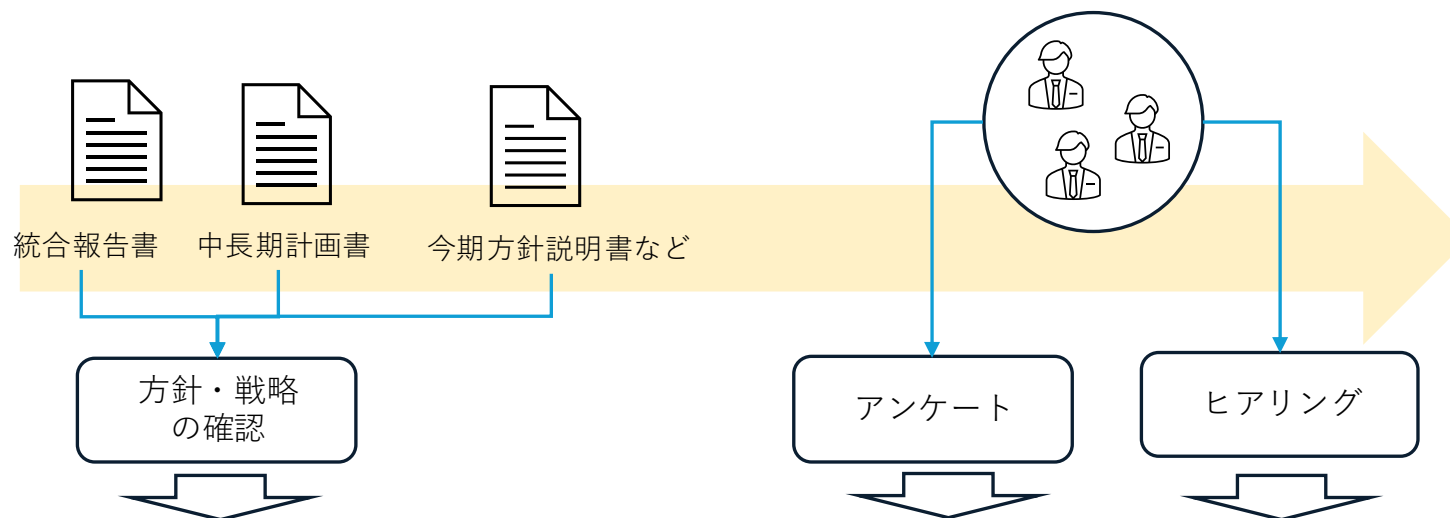


診断後の評価結果



不適合一覧表（例）

項目	適合レベル	概要	改善ポイント	対象文書	判断	文書化の有無
4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解	1	「統合書」に利害関係者からのニーズ、期待、要求事項について発見することができませんでした。	「利害関係者」のニーズや期待についての対応が発見できず、証拠上はやっていないと判断されてしまう可能性が高い。 前項の活動で利害関係者にも対応しているというのであれば、それを明確にする必要がある。 現時点では、確認ができなかった。		重度な不適合	
4.4 イノベーション・マネジメントシステムの運用	1	イノベーション・マネジメントシステムに対するプロセス図や体制図などの文書が発見できませんでした。	IMSに関するプロセス図や体制図などを明記した文書を作成してください。		重度な不適合	
5.5 船種の役割、責任および機能	1	文書化されていないだけで、おそらく明確になっているものと思います。	この要求事項は、強く文書化され組織に周知されることが必要ですので、文書化してください。		重度な不適合	
6.3 変更の計画策定	1	イノベーション・マネジメントシステムに対する変更に関しては、情報が発見できなかったため、ゼロベースだと考えられます。	内部監査、マネジメントレビューなどを踏めて、変更の計画策定と変更を実施するプロセスを確立することが重要です。		重度な不適合	
6.4 イノベーションのポートフォリオ	1	各事業もしくはイノベーション活動のポートフォリオについては発見できませんでした。 統合報告書にて各事業の戦略や目標についての記載はあるものの、精度や項目などが共通ではないため、事業目標をポートフォリオ化しているという判断は難しいと思われます。	各事業における戦略や目標を一部共通化させ、ポートフォリオ化する。「バリューポートフォリオ化」もしくはイノベーションのみに着目した「イノベーションポートフォリオ化」を行うことが重要となります。 本ご提供の資料では、後者の部分を前提にしたポートフォリオのプロセスを参考ベースで記載させていただきました。		重度な不適合	
7.1.5 インフラストラクチャ	1	IMS運用に関するインフラストラクチャが明確になっていませんでした。 明確化と文書化（インフラストラクチャの一覧表：目録）を作成してください。	船種の財務にも関連しますが、IMS活動に必要なインフラストラクチャを見える化し、必要な予算を割り当てる必要があります。		重度な不適合	
7.1.6 知識	1	ナレッジ管理の仕組み、成功や失敗の報告、振り返りなどの仕組みが確認できませんでした。	創事業活動において、何らかのナレッジ管理の仕組みを構築してください。		重度な不適合	
7.3 認識	1	ポイントは3つです。 - 会社全体のミッション、ビジョンなどを認識する - 自船種（事業部）の方針、戦略、目標を認識する IMSを理解する とくに創事業活動に参加される方々は、上記の3つを認識させるための施策を講じる必要があります。 前者の2つは、会社の統合報告書や事業部の方針説明会などで説明があると思いますが、IMSに関しては、おそらくやっていないと判断されます。 そのためイノベーション・マネジメントシステム（IMS）の研修を行うことを文書化（＝見える化）する必要があります。	IMSなどでも同様ですが、ISO6901に関する教育を行い、確認テスト（＝文書）を行うことでクリアできます。 ミッション、ビジョン、方針、戦略などはいずれでもアクセスできる範囲（社内ポータルなど）に公開し、利用可能（アクセス可能）な状態にしてください。		重度な不適合	
7.5 文書化した情報	1	IMS運営に関する文書化は、ほぼ確認ができませんでした。	IMSマニュアルや記録文書、規程類など会社共通文書とIMS専用文書にわけて作成が必要で		重度な不適合	



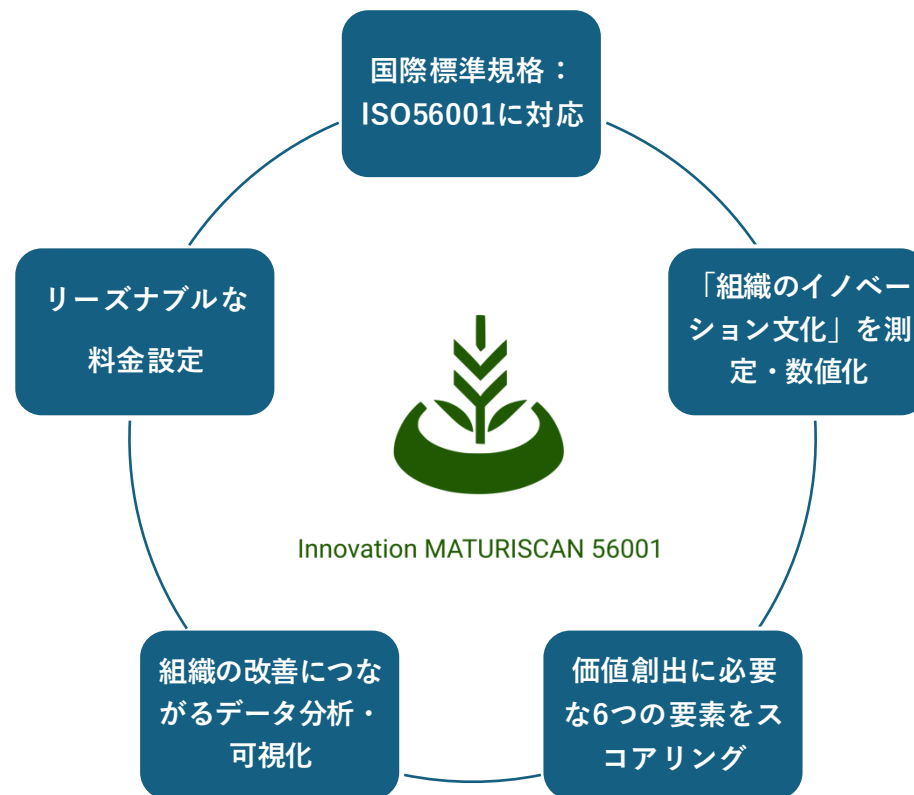
- 測定結果の全体像（左図）
- 測定結果の詳細
 - ❑ 重度な不適合判定一覧と是正アドバイス
 - ❑ 軽度な不適合判定一覧と是正アドバイス
 - ❑ 改善の機会判定一覧と是正アドバイス
 - ❑ 適合判定一覧
 - ❑ Good判定一覧
- 是正アドバイスの実現案



イノベーション組織の状態を可視化 ヒトにイノベーション文化が根付いているか測定する

Innovation MATURISCAN 56001

イノベーション組織サーベイ『Innovation MATURISCAN 56001』は、ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）の要求事項にある「イノベーション文化」を基軸に、価値創出と持続的な価値向上が可能な組織状態を測定・数値化するサービスで、イノベーション組織の成熟度をスコアリングします。





本調査について

調査方法について

調査結果（概要）

調査結果（詳細）

改善・是正の機会

戦略の認識

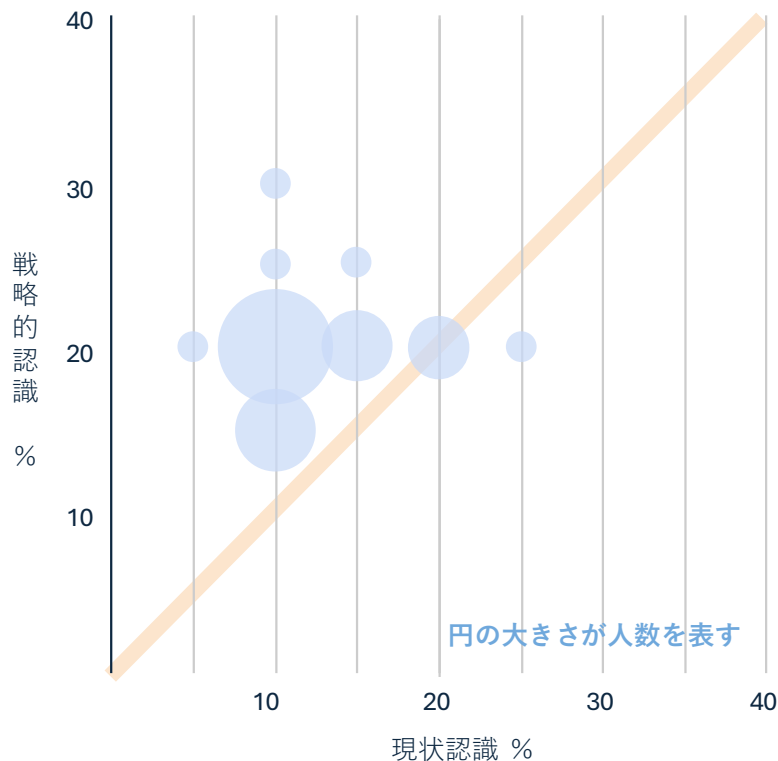
変化の認識

成長の認識

奨励の認識

組織の認識

適合の認識



調査方法

イノベーションに関わる新しい取り組みに、どれくらいのリソースを割けているかを、「現状」と「戦略（理想）」で回答

データから見えた組織

「わかっているのに、できない」組織の実状

「変わりたいのに変われない」組織の実情

1. 現状認識の平均は概ね10～20%、一方で戦略的認識（理想）は20～30%。
2. およそ10 ptの乖離が「戦略の認識」のズレ

→ 「自覚（意識）」はある！「仕組み」に手をつけましょう！



本調査について

調査方法について

調査結果（概要）

調査結果（詳細）

改善・是正の機会

戦略の認識

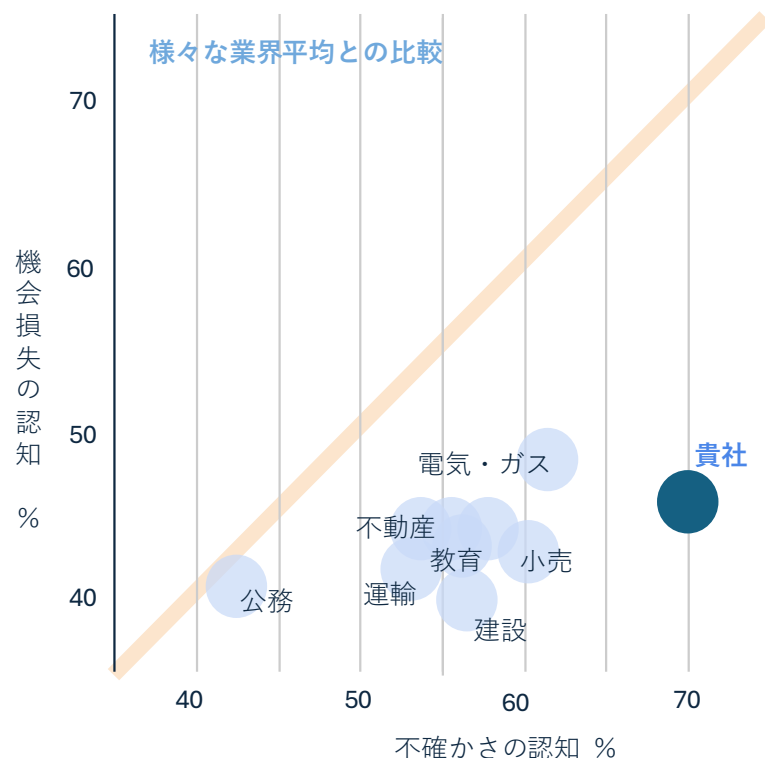
変化の認識

成長の認識

奨励の認識

組織の認識

適合の認識



調査方法

「実施するリスク（不確かさの認知）」と「実施しないリスク（機会損失の認知）」の2つのリスク認知を計測。リスク認知は悪いことではなく、必要な認知。特に、後者の「機会損失の認知」があることが、新しい取り組みへの原動力となる。

データから見た組織

「失敗リスクへの意識が高い」組織の実状

「挑戦して傷つくより、やりすぎしたい」従業員の実情

1. リスク認知は、十分にある。
2. ただし、補助線より右下にあり、「実施するリスク」認知よりも「実施しないリスク」が25ptも低い。

恐れる失敗、しかし、本当の脅威は「やらないこと」にある。

→機会損失、ひるがえって、成功を定量的に語りましょう。



本調査について

調査方法について

調査結果（概要）

調査結果（詳細）

改善・是正の機会

イノベーション文化

トップマネジメントは、次に示す事項によって、イノベーション活動を支援するために必要な組織文化を決定し、推進しなければならない。

該当項目

a) 組織の内部の状況を理解する一環として現状の組織文化を分析すること

b) イノベーションの意図,方針,戦略を考慮すること

ISO_01,02,03

c) 全ての階層のリーダーが、リーダーシップ及びコミットメントを実証し、ロールモデルとして行動することを奨励すること

チームへの信頼, ISO_08,12

d) 力量開発,認識,関与及びコミュニケーションを必要に応じて確実に行うこと

主体性要因, ISO_13

e) 次の特性を適切に考慮すること

--

1) 創造性と実効的な活動の共存を可能にすること

ISO_11

2) 変化への開放性,リスクを取る姿勢,協働及び共創

主体性要因, 促進焦点・防止焦点, ISO_16,20

3) 洞察の活用,利用者及び価値実現への注目

不確かさの認知, 機会損失の認知

4) 新しい知識及び力量を獲得するための探索及び実験

主体性要因, 進取性, ISO_14

5) 仮定及び確立済みの条件への問い

主体性

6) 参加者の多様性及び異なる見解に対する尊重(心理的安全性)

チームへの心理的安全性, ISO_05,19

7) 仮説に基づく分析及び意思決定と、証拠に基づく分析及び意思決定とのバランス

ISO_22,23

8) フィードバック及び継続的な学習の奨励

ISO_15,17,18

9) 曖昧さ及び不確実性に取り組む能力

不確かさの認知, 機会損失の認知, 進取性, 促進焦点・防止焦点



本調査について

調査方法について

調査結果（概要）

調査結果（詳細）

改善・是正の機会

戦略・マネジメント		補足説明
組織の目指す方向の認識と理解		
現状	現在、あなたの会社が、新製品・新事業の開発やDX、新規開拓など...（中略） 会社全体のリソース（予算・人員・時間など）をどれくらい割いていると感じますか？	戦略理解の一致や適切なマネジメントがおこなわれていることを計測する。
理想	本来、あなたの会社は、...（以下、同上）	
イノベーション・マネジメントへの理解		現状と理想のギャップを可視化。 また、経営・従業員間のギャップや部署間のギャップなどを可視化できる。
新しい取り組みへの関わり方に対して、あなたの上司は、AとBどちらに近いですか？ A（正答）. 計画にない検証もいとわず、メンバーが主体的に動ける環境をつくっている B（誤答）. 役割分担や期限を明確にし、計画から外れないように管理している		
連携・組織的学習		
コラボレーション（他部署との連携）、チームワーク（チーム内連携）		
部署横断の信頼	社内とはいえ部署が違う方は、私に隙があれば、自分が都合の良い方に持っていってしまう	多くのステークホルダーが関わるイノベーションでは、リスクをとる未来志向の関係性である「信頼」による連携が必要となる。 また、単に失敗をなくすだけではあれば、何もやらないことが正解となる中、挑戦の奨励と適切な失敗への対応による組織的な学習が重要となる。
上司への信頼	直属の上司は、問題が起きたり強い要望がないと、進んで動いてくれない	
メンバーへの信頼	部署のメンバーや同僚は、必要な情報は隠さずに開示してくれる	
心理的安全性	私は、前例にない思い切ったことやリスクの高いことをする場合、上司が気になって躊躇する	
失敗と成功のふりかえり		
仕事でうまくいかなかったとき、上司やチームの反応は、AとBどちらに近いですか？ A（正答）. 挑戦したこと自体を奨励し、失敗から学べることを重視する B（誤答）. 原因究明と再発防止を徹底し、ミスや失敗をなくすことを重視する		
組織文化		
主体性・自律性		
		私は、結果の見通しがつかない仕事でも、積極的にとりくんでゆくほうだと思う
動機づけ特性		
促進焦点（成果志向）	大きな成果を得られる可能性のある仕事を断る理由はない	
防止焦点（失敗回避）	職場では、私はたいてい、悪い出来事を避けるように注意している	
リスク認知		
不確かさの認知	気をつけて仕事をしないと、良い顧客や取引相手を逃すことになる	リスクを認知することが新しい取り組みへの機会となる。
機会損失の認知	同じ相手と仕事ばかりをしていると、重要な機会を失っている気がする	

イノベーション・マネジメントシステムとは

サービス構成

知識習得サービス

導入支援サービス

運用支援サービス

その他サービス

サービス利用のシナリオ

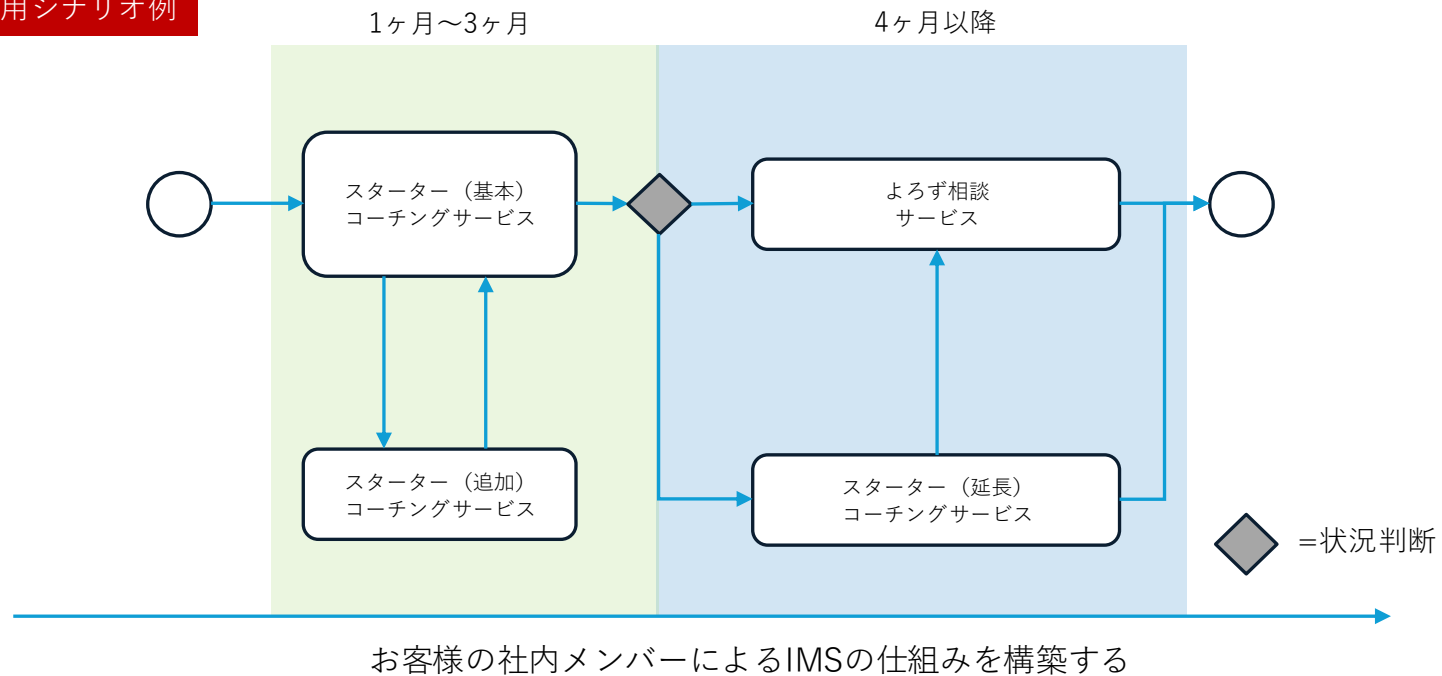
料金表



前提条件

- IMS（イノベーション・マネジメントシステム）の基礎知識を保有していること
- IMSを推進するメンバーがアサインされていること
- 経営・マネジメント、または組織横断の権限をもつ役職者が、IMSの活動をコミットメントすること
- お客様が主導で仕組み作りを行うこと（当社はコーチングとアドバイザーとして活動）

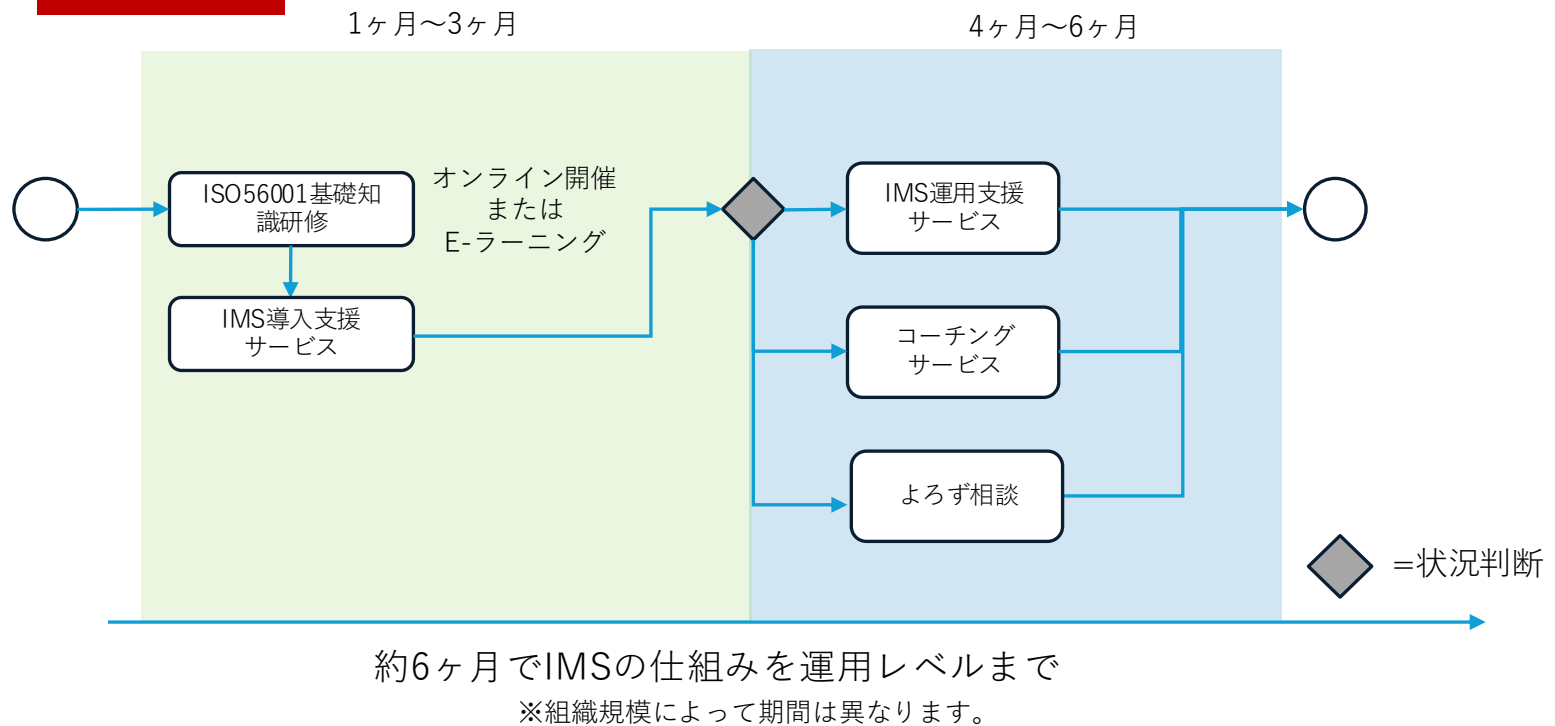
利用シナリオ例



前提条件

- IMSを推進するメンバーがアサインされていること
- 経営・マネジメント、または組織横断の権限をもつ役職者が、IMSの活動をコミットメントすること
- 当社が主体となってイノベーションの仕組みを構築します。

利用シナリオ例



イノベーション・マネジメントシステムとは

サービス構成

知識習得サービス

導入支援サービス

運用支援サービス

その他サービス

サービス利用のシナリオ

料金表



分類	サービス項目	内容	料金（税別）	備考
IMSスタートアップ				
	ISO56001基礎知識研修	ISO56001およびISO56002の基礎知識を学ぶ研修	600,000円/開催	オンライン開催を想定（オンサイト対応の場合は別途調整） 1開催あたり5時間を想定/参加人数5名まで（1名単位で追加可能） 追加1名あたり80,000円（税別）となり、最大10名まで 研修テキスト、生成AIによるQAチャンネルのサービス提供を含む
	ISO56001 Eラーニング（提供予定）	テキスト+動画で学べるオンライン講座 コースごとのサブスクリプション	500円/講座～	各コースごとに契約、順次リリース予定
	国際認定資格取得研修+資格試験	世界的イノベーション研究機関であるGlobal Innovation Management Institute（GIMI）が認定する 国際的なイノベーション資格取得研修と試験	128,000円/名	イノベーションスキル判定 / 思考特性判定のアセスメント付き 試験対策講座および、認定資格試験（オンライン）を提供します
IMS導入支援サービス				
	IMS導入支援サービス	「適用範囲の決定」「基本方針の決定」「推進体制の 決定」「規定・マニュアル・手順書の作成」「ハンド ブックの作成」「会議体のテンプレート作成」などを 支援します。	個別見積 目安：約300万円～	組織の状態や規模、要件によって個別見積となります。 お客様と伴走しながらの支援となります。
IMS運用支援サービス				
	IMS運用支援サービス	IMSの規定・ルール・範囲などの把握を行い、内部監 査シートとマネジメントレビューシートを作成しま す。 IMSの計画策定を支援し、定例会による状況確認、内 部監査およびマネジメントレビューを支援します。	個別見積 規模と状況によって試算 約150万円～	組織の状態や規模、要件によって個別見積となります。 お客様と伴走しながらの支援となります。



分類	サービス項目	内容	料金（税別）	備考
IMSコーチングサービス				
	IMS支援：スターター（基本） コーチングサービス	支援回数：月2回 ※1回あたり2時間程度 WEBシステムによるQA対応（月10件まで）	450,000円/月額	原則、お客様のIMS運営に関するアドバイザー的な役割を担います。 資料や成果物の作成は行わず、IMSに関する課題事項やIMS導入の進め方などのアドバイスをいたします。 必要に応じて、資料・テンプレートを提供します。 最小契約期間：3ヶ月
	IMS支援：スターター（追加） コーチングサービス	追加のオンライン支援（4時間ごと） WEBシステムによるQA対応（月5件まで）	200,000円/月額	基本契約に追加する。 基本契約期間内で、必要な月に追加可能
その他				
	イノベーション組織サーベイ	ISO56001対応 イノベーション文化と認識を含めた組織サーベイ	55万円/サーベイ	上限人数:50名を対象にアンケート調査を行い、全社、部門別や役職別にイノベーション組織サーベイを報告させていただきます。 イノベーション文化等の測定に対応いたします。 対象人数によって価格が変動します。別途価格表をご参照ください。
	IMS適合アセスメント	ISO56001対応 イノベーション・マネジメントシステム（IMS）の適合サーベイ	150万円/サーベイ	統合報告書または方針説明書などの文書を確認し、アンケートおよびヒアリングにより、価値の構造化を含むISO56001の要求事項に対して適合率の評点をアウトプットします。 アンケート対象は、30名以内を前提とし、人数の追加は、5名単位（25万円）で追加できます。
	よろず相談サービス	WEBシステムによるQA対応（月10件まで）	200,000円/月額 2,000,000円/年額	当社のサービスの契約満了後、WEBシステムによるQA対応を継続して提供いたします。 年間契約の場合、2ヶ月分をサービスさせていただきます。 生成AIによるQAチャンネルのサービス提供を含む
	IMS理解促進活動サービス 経営マネジメント層向けはじめてのIMS	経営・マネジメント層向け「はじめてのIMS」 45分～90分程度	250,000円/開催	最大対象人数 オンラインの場合：50名（当社のオンライン参加上限数） 訪問の場合：30名（諸経費別）
	IMS理解促進活動サービス 現場メンバー向けはじめてのIMS	現場メンバー向け「はじめてのIMS」 45分～90分程度	200,000円/開催	最大対象人数 オンラインの場合：50名（当社のオンライン参加上限数） 訪問の場合：30名（諸経費別）

ISO 56001（イノベーション・マネジメントシステム）は、全従業員が保有すべきビジネス基本リテラシーです。

これを学ぶことで、経営層の意図・方針・戦略への理解が深まるとともに、社内外の変化が自社に及ぼす影響にも気づけるようになります。

認証取得はあくまで出発点にすぎませんが、組織変革を進めるうえで重要なプロセスであると考えています。